

欠席委員コメント①

- 1 武蔵国府のまち・府中市の歴史を理解でき、府中市の中心で、国史跡武蔵国府跡＝大國魂神社と密接なつながりを持った歴史公園として整備すべきだ。単なる駅前広場であってはならない。
- 2 他の地域であれば、古代の建物を復元・建築すべきではないと思うが、この市街地化が進んだ場所で、駅前の場所という立地環境では、これまで国内の史跡整備にないインパクトある（あっと驚くような）復元をすべきだ。

可能であれば、国司館の建物全部を復元して、NHKの大河ドラマのセットとして使ってもらえるような、古代の国司館の空間が感じられるような整備を考えてほしい。
- 3 ただし、私は、吉野ヶ里遺跡、三内丸山遺跡、平城宮跡に代表される、国営歴史公園としての管理運営、活用は決して良い事例とっていない。国営公園は、一期目の担当者は思い入れを持って運営にあたっているが、代が変わると全くその思いが伝わらず、レベルダウンする事例が多い。

なぜ、そうなるか、それは、国・都道府県・市町村がハード的な整備を主に、近隣住民が主体的に活用を担うような取組を行ってこなかった結果だと思っている。今回の御殿地地区の史跡整備は、ぜひそのようなことがないよう、十分に、時間をかけて検討して欲しい。
- 4 その意味では、国司館の空間（50m四方）が感じられる、古代の原風景の表現が大事だ。※発掘調査で検出されている建物の遺構だけではなく、想定される国司館の敷地全体を保存整備の範囲に含めて、史跡整備を考えてほしい。遺構が検出された範囲を捉えがちだが、そうではない。本来あったであろう国司館の敷地全体を整備対象とすべきだ。
- 5 基本計画の中で、国司館とその周辺、大國魂神社、国衙、段丘崖の国司館（大館）、熊野神社古墳という、市内の貴重な歴史的資源をいかにネットワーク化していくかを考えてもらいたい。駅からの導線など、決して御殿地地区だけの史跡整備をすべきではない。

特に、短期的な（数年）整備計画だけではなく、中・長期的な計画、たとえば10年後、20年後という代替わりした後でも活用し続けられる仕組み作りを考えてほしい。
- 6 その意味では、ふるさと府中歴史館を核として、周辺施設と連携しながら、府中市全体でこの地区の歴史的価値を高めていってほしい。
- 7 ふるさと館が老朽化した場合でも、御殿地地区のガイダンスはあくまで、地元の核となる施設であり、ふるさと館の機能がここに移転することは考えるべきではないと思う。（対象地域の敷地面積も考えて）
- 8 具体的な整備（活用）手法の検討はこれからと伺っているが、三重県齋宮跡のような、国府のまちを模型で復元することも一案と思う。CGも含めて良く調査研究して欲しい。

欠席委員コメント②

事業計画について、今年度中に基本計画策定、来年度は基本設計に着手することのだが、時間が足りないのではないか。全国でも例のない駅前市街地での史跡整備であり、できる限りじっくりと、様々な可能性を検討していくべきだと思う。

国司館の復元については、必ずしも復元ありき、ではないと考える。史跡整備において古代の建物を復元している事例は数多あり、そういった設計や施工を請負う業者も数多あるが、いわゆる「既製品」の建物を置いただけ、というような事例ばかりで、本来の意味での「復元」からはかけ離れてしまっている事例が多い。

もし、建物を復元するのであれば、出来る限り当時の工法を採用し再現すべきである。また、その過程で市民に当時の工法を体験してもらえよう機会があれば尚良いと思う。

しかし、復元建物を建てた場合の、将来に亘る維持管理のコストを考慮すると、やはり現実的ではない。古代の官衙建物とは、そもそも長期に亘る使用・保存を前提としていないものだ。したがって、忠実な復元を試みようとするほど、保存には適さず、非常に短いスパンで維持補修を繰り返さなければならなくなる、という矛盾を生じる。また、建築基準法等の法令上の制限も受けることになる。

私は、復元建物を建てるよりも、検出された遺構の位置をはっきりと現地に平面表示した上で、バーチャル技術を活用して建物のスケールを体感できるようにした方が良いと考える。様々な方法があると思うので、是非検討していただきたい。

また、建物の復元は、実物大ではなく、模型を用いるべきだろう。将来、研究の進展により、新たな知見が得られた場合にも、バーチャル技術や模型であれば容易に更新ができる、という利点がある。

また、特に夏の暑い時期、来場者が激減することが懸念される。大きな木を植えて日陰を作ることは遺構の保護上難しいだろうが、水場を設けたり、ミストを噴射する等、炎天下でも来場者が途絶えることのないような、何らかの工夫は必要だと思われる。